

# 体験学習カード

作成日 2019/ 7/ 1.

<p>体験内容 ※</p>	<p>「目が見えなくても色々できるよ」</p> <p>人は、視覚に障がいがあるとき、触覚、聴覚、嗅覚、味覚によって補う素晴らしい力を備えています。「上手に水を注ぎましょう」「お鼻ククンかぎ分ける」「音を頼りに歩きましょう」「白と黒の豆しわけ」といったゲーム形式のプログラムの中で、楽しく体験しながら人の持つ無限の可能性を実感しましょう。</p>	
<p>対象年齢</p>	<p>4 歳以上</p>	
<p>参加条件</p>	<p>特にありません</p>	
<p>定員</p>	<p>特にありません</p>	
<p>所要時間</p>	<p>12人が同時に体験した場合 15分前後</p>	
<p>場所 (スペース、設備等)</p>	<p>教室、体育館、校庭など</p>	
<p>持ち込み備品</p>	<p>① 紙コップ 12個 ②香水 3種類 ③鳴り物 5種類 ④大豆、小豆適量 ⑤3 コーナーのトレー 3枚 ⑥紙コップ 6個 ⑦ペットボトル 3本 ⑧バケツ 3個</p>	
<p>スタッフ数</p>	<p>4つのアトラクションに、各3セット用意するとして、スタッフ12人</p>	
<p>依頼者が準備する 備品</p>	<p>教室机と椅子 24脚</p>	
<p>開催時期</p>	<p>特にありません</p>	
<p>問合せ先 ※</p>	<p>★狛江市市民活動支援センター(こまえくぼ1234) ☎03-5761-5556 FAX 03-5761-5033 Email:<a href="mailto:info@vc.komae.org">info@vc.komae.org</a> ★狛江視覚障害者の会 事務局 宇多川清治 ☎090-9144-9384 Email:<a href="mailto:se-udagawa@tuba.ocn.ne.jp">se-udagawa@tuba.ocn.ne.jp</a></p>	
<p>備考 (費用、駐車場、 控室等)</p>	<p></p>	

## 「目が見えなくても色々できるよ」

### ★「お鼻ククンかぎ分ける」

- ① 3つ紙コップ Aさん/Bさん/Cさん用に、3種類の香水を浸した脱脂綿を各々入れます。
- ② 別に1つの紙コップ Dに、3種類の香水の中から1つを選び脱脂綿に浸して入れます。
- ③ 体験者はアイマスクをして、紙コップ Dの臭いを確認してもらいます。
- ④ その後紙コップ A/B/Cの香りから、ハンカチを落とした人を見つけます。

### ★「音を頼りに歩きましょう」

- ① 2人が1組になって取り組みます。
- ② アイマスクをした真っ暗闇の中で、音を頼りに相棒のいる所へ歩いていきます。
- ③ 3チームが別々の音のする鳴り物を選びます。
- ④ アイマスク役と音出し役が2つに分かれ、3チームが一齐に音を鳴らし合図を送ります。
- ⑤ アイマスク役は、自分のチームの音と方向を聞き分けて、相棒のところにたどり着きます。
- ⑥ アイマスク役と音出し役が交代して同じことを繰り返します。

### ★「白と黒の豆仕分け」

- ① 3つのコーナーのトレイに、大きさの似た大豆と小豆をまぜて1つのコーナーに入れます。
- ② アイマスクをしたまま、小豆と大豆を別のコーナーにそれぞれ分けます。
- ③ 正しく仕分けられたかと同時に、達成時間を計測することで遊びの要素がたかまります。

### ★「上手に水を注ぎましょう」

- ① アイマスクをして、ペットボトルから紙コップに、こぼさず丁度良い量を注ぎましょう。
- ② 最初のコップには、体験者が自由にトライします。
- ③ 次に視覚障がい者が行っている方法をアドバイスして、実行してもらいます。

## 「ちゃれんじクラブ」が目指すこと

**障がい者の住みやすい社会は、全ての人にとっても住みやすい社会であることを理解し、全ての人と共に暮らせる社会を目指します**

遊び

- ① 遊びのルールとして、障がい者の置かれた制限(ハンディ)を子どもに体験してもらいます。
- ② 楽しく遊びながら、モチベーションを維持し能動的に課題へ取り組むことができます。
- ③ 参加しやすく間口を拡げ、これまで関心の薄かった子ども達の参加を促します。

体験

- ① 知識ではなく、心と身体で体験するを基本に、障がいについて考える出発点にします。
- ② 正しい答えを提供するのではなく、幾つかの選択肢から、その子なりの答えを出せる余地を残します。
- ③ 与えられた制限(ハンディ)を乗り越え、課題をクリアすることで、自分が壁に直面した時、それに立ち向う勇氣を持って欲しい。

気づき

### 何に気づいて欲しいの... ?

障がい者の暮らし、障がい者の世界が特別なものでなく、すぐその隣人の暮らしと、何ら変わらないと言うことを感じ気付いてくれることを目指します。